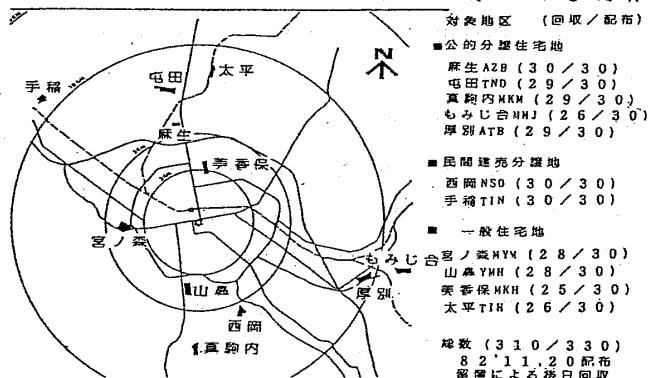


## 住宅地における住民の景観意識に関する研究——札幌市の場合

※1 正会員 太田 實 同 小林 英嗣  
※3 同 ○ 渡辺 治 同 大岩 浩一

## □1 はじめに

近年、都市環境をめぐる政策の目標が生活環境優先と魅せるある街づくりの創出への試みが行なわれ始めている。都市景観形成に取り組むもの一つである。しかし、都市景観への住民の意識や要求が景観の形成・整備へ繋がる計画の本質は必ずしも充分でない。本研究は、住宅地のストリートスケープ及び、街区・地区環境への意識と評価を空間構成要素の特性と居住者特性とから捉え、景観整備計画への示唆を探ったものである。札幌市の住宅地を対象とし、住民へアンケート・物的要素実態の調査により検討した。対象地区は、①形成時期②住戸形態③開発主体④市街地の位置により、11ヶ所を選定した。マンションは、地区中心をクロスする道路の住戸を対象とした。(表1)



## □2 空間構成要素への意識の傾向性

街路樹を中心とする要素に対し、全地区で住民が意識しやすい順序は、自動車 ▷ 卓道 ▷ ゴミ置場 ▷ 街路樹 ▷ 道路 ▷ 生垣 ▷ 電柱 ▷ 広告看板 ▷ 墓地門 ▷ 屋根 ▷ 外壁 ▷ 建築物等、である。これらと、要素の存在地点と意識の関係とから察すると、意識しやすい順位上、公的・私的・軽微の三領域に区分することができる。(表2)

## □3 地区・街区の空間実態と住民の意識・評価

## 1) 公的分譲住宅地

一般的な住宅地・建物で構成される地区であるが、敷地規制・庭や堀・生垣・街路樹・歩道の状態・建物

の更新状況により、建物の統一性・庭木・生垣・街路への意識が異なり、活性化・新しさで評価である。

## 2) 民間建売分譲地

宅地地主の程度であり、庭は裸く樹木がけない点に

空間構成要素の指摘率の順位

## T.1

部屋	ルーム	西側	東ノ面	手前	山側	裏側内	裏側外	共生	仮田	太平
屋根	12	10	9	10	12	8	7	10	8	7
外壁	11	10	7	9	11	10	9	9	8	9
ガレージ・物置	9	10	12	11	12	11	12	12	11	12
ハイ・サク・門	8	9	7	7	9	9	10	11	6	8
生垣	6	6	11	5	7	6	3	7	5	7
広告看板	6	7	7	11	8	6	6	9	11	7
ゴミ箱	1	3	4	4	1	6	2	3	2	5
街路樹	3	2	2	5	4	4	6	2	6	4
電柱	10	3	7	8	1	2	11	3	8	6
歩道	4	5	4	1	5	3	3	1	4	2
消防	5	7	2	3	6	6	3	3	2	3
自動車	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1

空間構成要素と景観の評価特性

## T.2

部屋	ルーム	西側	東ノ面	手前	山側	裏側内	裏側外	共生	仮田	太平
自動車の量多い	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
子供に目立つ印象	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●
路上駐車気になる	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ゴミ箱多い	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
見かけない	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○
ゴミ箱多い	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
歩道狭い	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
道路表面悪い	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
歩道編狭い	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
歩道表面石子多	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●
歩道祭り気になる	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●
駐車場多い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
駐車場目にさわる	○	○	○	●	●	●	●	○	○	○
駐車場の影大きい	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●
駐車場風景悪い	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●
駐車場歩行にじゃま	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
歩道被歩行にじゃま	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
● 分の家に沿して	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●
● 公私混在して	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
● 私の家に対しても	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
● 分の家に対しても	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

※注 (● 半数以上が、不高か、その項目を支持するもの)

(○ 木高か、その項目の度数の多いもの)

屋根・外壁が低い歩道に接続している。屋根・外壁・庭木の量・歩道の中と表面・電柱・街路樹への意識が顕著であり、毛飛々・広々・情緒的評価である。

### 3) 一般住宅地

宅地の細分化・住居に対する建築密度の上昇・庭の狭小化・樹木の減少・埠や生垣の未設置・歩道の狭小等の状況で、庭の規模・庭木・屋根と通りの形と高さ・歩道巾・電柱・街路樹への意識が強い。また、街路の安全性・技術性・情緒性への評価が顕著。(表2)

## □4 街路景観の評価と物的要素の意識

景観の評価と物的要素の意識との相関を見ると、

にぎやかさ - 外壁の色の統一性・古び知り・当面の量・外壁の色・屋根の色・屋根の形・高さなどこれらの物的要素から影響が大きい。  
整備状態 - 一道路表面・歩道・表材材・道路わいばいの整備状態から影響が大きい。  
構造 - 一道路表面・外壁の統一性・生垣の美しさ・庭の統一性など・公私・公私・接境からの影響が大きい。  
樹木 - 一道路巾・歩道巾・電柱・博報性など・公私接境からの影響が大きい。

以上から、評価項目により、影響する物的要素の状態と領域の状態に特性があること明らかになった。(表3)

## □5 景観整備と景観評価に関する社会性

1) 近所つき合いの頻度・意欲・必要性子、各地区で④側の評価であり、現状の頻度と意欲と必要といふ評価順位が確認できた。すなはち、各地区とも現状より以上の近所つき合いを期待でき、整備評価における住民の参加度点で有意味な意識が確認できた。

2) 近所つき合いの「内容」の評価と近所のたすき子の評価(親切心・快活・満足感)の間に各地区で高い相関があり、良い地区ほどつき合いの内容の評価が高いことが分かった。これから、景観の新規感や総合的な評価はつき合いの本懸念の影響を受け、地区的時間経過と共に高まってゆくことが確かめられた。

T.3 物的要素の意識と前面道路の評価の相関図

前面道路の評価	景観構成要素の意識 CHI SQUARE					
	外壁の色	道路の形	屋根の色	自動車の形	歩道の形	路上駐車
にぎやかさみじい	31.97	42.80	23.20	32.88	33.59	5.56
整備状態	29.57	51.81	13.39	30.19	13.70	13.83 (4.18)
きれい	22.75	35.69	10.53	12.78	11.03	14.70 (26.02)
ゴミゴミ	26.71	35.32	15.31	26.58		
のひのひきゅうくつ	52.14	36.90	8.56	22.40		
子供に安全子供に危険	62.34	118.01	17.09	16.63	26.00	17.66 (19.00)

## □6まとめ

地区・街区景観の意識の領域性・物的要素と意識の関連・景観評価と意識の相関・近隣の社会性への意識が抱えられ、以上をまとめて景観整備について検討する。

### 1) 公的領域

住民の意識・評価を重視し、公的サイトから施設整備を中心としたアロケーションの設定が必要である。距離・量・路上駐車を制御する道路利用の改善と、歩道の改修と広巾化、電柱・街路樹・ゴミ箱場の配置と管理、歩道表面と段差の改良等を考慮して、街路の清潔感・開放感・情緒性を創出する整備が必要である。

### 2) 公私接点

雪処理・生活様式により、固い・生垣は低くねらが、草地境界の明示と街路の統一性・清潔感の創出の点で景観上、重要な要素である。材質・色彩・高さ・形状・樹種の検討と、住民との協議・協力による、設置・改善・管理を義務づけた協定・契約が必要である。

### 3) 私的領域

相対的に意識密度の低い領域であるが、街区の高密度化・宅地の細分化の為、より強く意識されており、景観整備上重視すべき領域である。街区・植栽レベルから、建築・庭・樹木・車庫・積雪を考慮した構成の検討と、日々の管理・改善行為の正確の社会性に基く、整備アロケーションによる指導手法が必要である。

また既存市街地では、公私領域毎に開発力の異なる整備手法が必要となるが、コミュニティアロケーションを含む住民の参加・協力に基づくソフトな整備アロケーションの検討が重要である。新規市街地では、開発主体別に整備アロケーションは異なり、公的開発では、強い規制が、民間開発では、主体の強制力度に応じた規制が、一般住宅地では、開発の指導手法が考えられる。

## □7 地区の特性と住民の属性

地区	DID調入年次	用途地域	地区を構成する住宅と他の用途	平均敷地面積	平均居住年数	平均年令
美術館	53.5 第2種住居	戸建住宅中心・アパート・自営業も点在	(坪) 85.3 (年) 18.8 (歳) 50.1			
みみじ台	55.0 第1種住居	公社認定・公社の分譲住宅	62.2	9.0	47.6	
厚別	54.5 第2種住居	公営住宅・公常団地	76.8	12.4	47.2	
宮ノ森	54.0 第2種住居	戸建住宅中心	129.0	12.4	44.7	
手稲	55.5 第1種住居	民間開発分譲住宅	66.1	3.9	42.1	
山鼻	53.5 第2種住居	戸建住宅中心・アパート・額多く・自営業も混在	91.7	13.4	45.3	
真駒内	54.0 第1種 第2種住居	公営住宅・公常団地中心 戸建住宅混在	110.5	8.0	45.2	
西岡	55.5 第2種住居	民間開発分譲住宅	65.6	6.6	41.5	
麻生	54.0 第1種 第2種住居	公社分譲住宅中心・一部に自営業混在	70.5	16.4	56.2	
屯田	55.0 第1種 第2種住居	公社分譲住宅中心・部分的に自営業混在	89.4	11.7	47.3	
太平	55.5 廉価 住居	民間開発分譲による 戸建住宅中心	56.9	2.9	40.1	

※1 北海道大学教授・工博※2 同助手※3 同大学院生